

令和3年度 指定管理業務 実績評価シート

作成年月日 令和4年6月17日

部課名 都市整備部公園緑地課

施設名	弘前市野外活動施設
施設の設置目的	優れた自然環境を活用し、市民に憩いの場を提供するとともに、広く市民の文化・体育向上を図る施設であることに加え、教育の場として子供の心身の健やかな成長に資することを目的とする。
所在地	弘前市大字百沢字東岩木山2480番地1
指定管理者名	一般財団法人 弘前市みどりの協会
指定期間	平成31年4月1日から令和6年3月31日まで
1 事業計画の実施状況 事業計画に則り、施設維持管理の適期作業の実施など、利用者の満足度等向上を図る施設運営に努めていた。また、消毒液の設置やソーシャルディスタンス等の感染防止対策を徹底し、安心安全を重視した施設管理を行っていた。なお、コロナ禍で臨時休園や各種イベントの中止が余儀なくされたものの、施設利用率は増加した。	
2 自主事業の実施状況 来場者へのサービス提供を目的に、ハイランドハウス内食堂営業、物品等の販売を行った。また、集客を図るためHalloweenイベントやキャンプ関係等のイベントを実施し、4,979人の参加があった。 自主事業を実施することにより、施設の魅力向上が図られていた。	
3 市民サービス向上のための取組状況 ・休館日について、曜日や学校の夏休み期間等における利用者の便宜を図る対応をしていた。 ・来場者に満足していただけるよう「おもてなしの心」で、丁寧な接客対応を心がけていた。 ・スキル向上のため接遇研修を実施したほか、不測の事態に備え救命救急講習を実施していた。 ・安定した取組み等により、利用者が安全で安心して施設を利用でき、市民サービスの向上に貢献した。	
4 市民ニーズの把握の実施状況 弥生いこいの広場では、アンケート箱をハイランドハウスと動物広場料金所の2か所に設置し情報収集を行い、26件の回答があった。 要望等について速やかに対応しており、施設等の改修・修繕が必要な件については、市と協議のもとに進めた。	
5 施設の利用状況（利用者数、稼働率など） 弥生いこいの広場施設入場者数は50,932人で、うち動物広場有料入場者数は37,245人で前年度対比増、オートキャンプ場入場者数は3,531人で稼働率は17.8%であった。 入場者数は増加し、継続したイベントの開催により充実が図られていた。	
6 指定管理業務の収支状況 常にコスト削減を考慮し、計画的で安定した予算執行に努めており、適正に行われている。	

7 実地調査の結果

第1回実地調査 …… 令和3年10月19日に実施。内容は、管理運営全般。

第2回実地調査 …… 令和4年3月8日に実施。内容は、管理運営全般。

管理内容を理解しており、良好な管理運営が行われていた。

8 成果指標の達成度

(入場者数実績) (目標人数) (達成度)
 50,932人 ÷ 64,000人 × 100 = 79.58%

9 評価

(1) 指定管理者の自己評価

評価区分	評価	評価の説明	今後の課題と対応
施設の運営	A	職員の配置、施設の平等な利用確保を確実に遂行した。また、北里大学獣医学部と連携し、動物福祉向上を目的とした環境エンリッチメントの実践評価に努めた。	ニーズを取り上げ、ウィズコロナに対応した新たな集客方法を模索し、感染症対策を重視した施設管理を心がけ、利用者の満足度を高める。
施設の管理	A	施設の老朽化などによる支障が出ないよう、日々の点検・清掃には、細心の注意を払いながら取り組んでおり、事故、トラブルはない状況であった。また、amazon欲しい物リストを活用し、動物たちの住環境整備・改善を図った。	設備等の不具合等、利用者目線に立ち、より安全で利用しやすい施設管理を今後も継続する。
経理の状況	A	法に定められた会計基準に準拠し、また、顧問公認会計士の指導のもと、適切な経理処理を行っている。	今後も経費の削減に努め、効果的に予算を執行し、誠実に経理処理を行う。
団体の財務状況	B	自己資本比率、流動比率、固定比率、総資本経常利益率、いずれも健全な財務状況である。	現在の財務状況は良好であることから、今後も安定的な財務基盤が保てるよう努める。

(2) 市の指定管理者に対する評価

評価区分	評価	評価の説明	今後の課題と対応
施設の運営	A	新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、利用者数は増加しました。職員の配置、公平性の確保、開館日調整等で利用者の満足度を高め、また、飼育動物への環境エンリッチメントにも努めていた。	今後も利用者の満足度を高めると共に、動物福祉向上のため環境エンリッチメントに努めていただく。
施設の管理	A	利用者目線に立ち利用者の安全を第一に考えた施設管理が行われており、個人情報等を適切に管理していた。	今後も利用者目線に立ち、より安全で利用しやすい施設管理を継続していただく。
経理の状況	A	帳簿等の整理・保管、経理の区分、収支状況及び経費の削減に努め、適切な処理がされていた。	今後も適正な経理に努めていただく。
団体の財務状況	B	安定的な施設の管理が可能な経理基盤であった。	今後も安定した財務状況を維持していただく。

【評価の視点】

評価区分	評価の視点
施設の運営	法令等の遵守、使用許可、市の指定事業、付随業務、自主事業、公平性、職員配置・研修、開館時間・休館日、職員の接遇、利用者ニーズの把握・反映、事業計画の実施状況、業務報告など
施設の管理	利用者の安全対策、施設・設備の維持管理、個人情報の管理、文書等の管理、備品等の管理、緊急時対策、災害対策など
経理の状況	帳票等の整備、経理の区分、収支状況、経費の削減、帳簿等の保管状況など
団体の財務状況	安定的な施設の管理が可能な経理的基盤を有しているか

【評価の基準】

A	協定書・基準書等の内容を超える管理運営が行われたと判断できるもの (適正な管理運営に加えて、更なる取組みや成果があると評価できるもの)
B	協定書・基準書等の内容を概ね適正に実施していると判断できるもの (軽微な改善点はあったが、速やかに改善されているもの)
C	協定書等の内容に対して改善点はあったが、適切な改善策が講じられているもの
D	協定書等の内容に対して不履行があるものや、改善がなされていないものがあるもの

※「団体の財務状況」の評価基準□

B	問題がない
C	今後に注意を要する
D	早急な改善を要する